

うなぎの寝床のトラスハウス

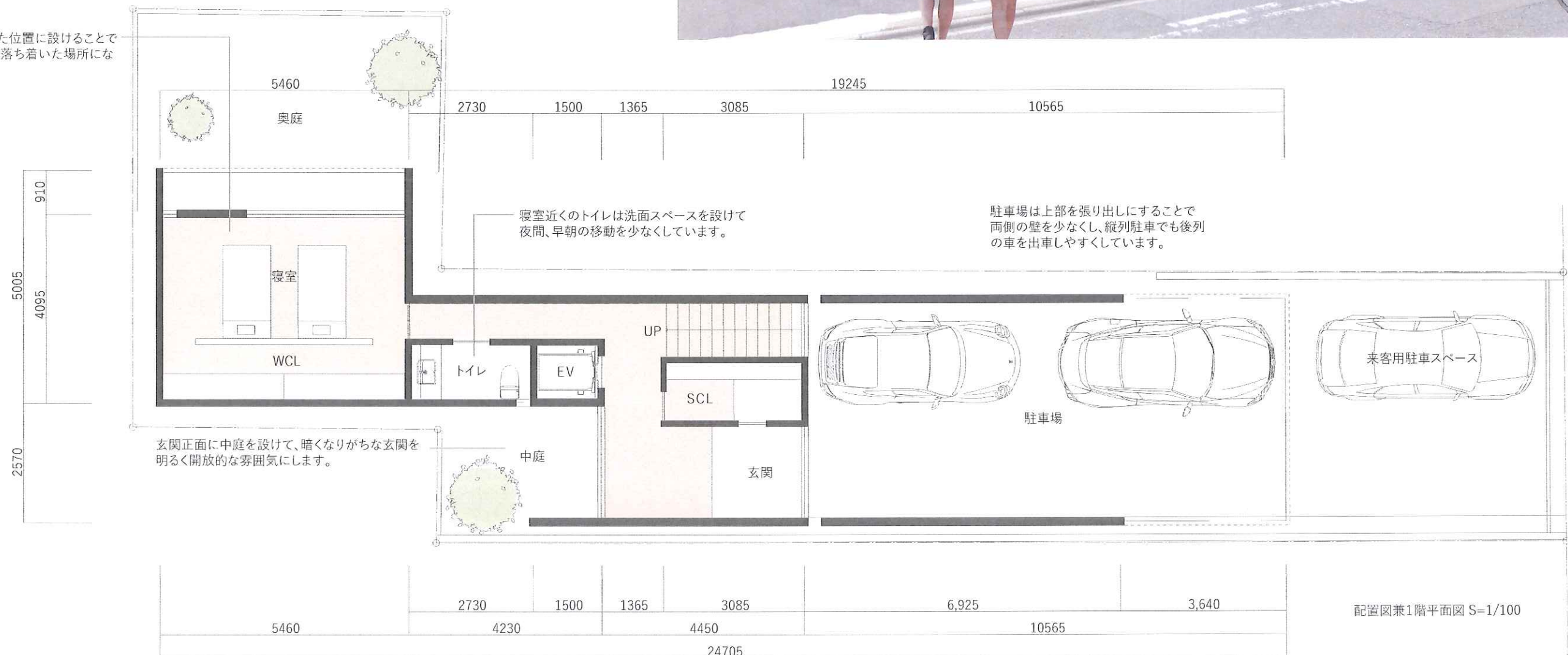
京都の都市部は間口が狭く、奥行きが深い所謂、うなぎの寝床と呼ばれる敷地が多く、敷地形状に合わせた住居形式が発達してきました。京町屋は間口一杯の立面に格子の意匠、家事動線としての通り庭、狭小地で通風・採光を確保するための中庭などの特徴があります。これらは現在でも有効な建物形式です。

本計画の敷地も京町屋の特徴に合致する敷地形状です。ガレージやエレベーターという設備がある現代の住宅では京町屋の知恵を活用しながら、新たな住宅の作り方ができると考えます。広い駐車場を確保するため、1階道路側は駐車場のみとし、キッチン、ダイニング、リビング、サニタリーなどの主要な室を2階に配置します。エレベーターが住宅にも設置できるようになったため、2階以降の階に主要室を配置しても生活動線に支障ができません。それどころか、通風・採光を確保しやすい上階は主要室を配置するのに適していると言えます。

1階の駐車場は無柱の軒下空間とするため、うなぎの寝床の特徴である間口が狭く隣地側に開口部が取り難いことを利用し、両外壁をトラスに組むことで大きな片持梁として機能させ広い空間を確保します。無柱空間であることで駐車配列の工夫や後列の車の出庫が容易になる、駐車空間の作業利用など利用の幅の広い空間になります。この張り出し部分は上階ではリビング前の半屋外空間になり、都市の喧騒を和らげる緩衝空間として、雨が降っても子どもや犬と遊べる場所として機能します。両袖壁は隣家からの防火にも効果的なため、リビングは防火設備(網入りガラス)を免除することが出来ます。リビングは吹抜けを設けた高さのある空間とすることで重力換気を促し、ハイサイド窓からの採光を確保することで快適な室内空間をつくります。現在の技術と京町屋の両方を利用することで京都のまちの環境にあった住宅をつくる事ができます。



敷地の奥まった位置に設けることで
寝室は静かで落ち着いた場所になります。



配置計画

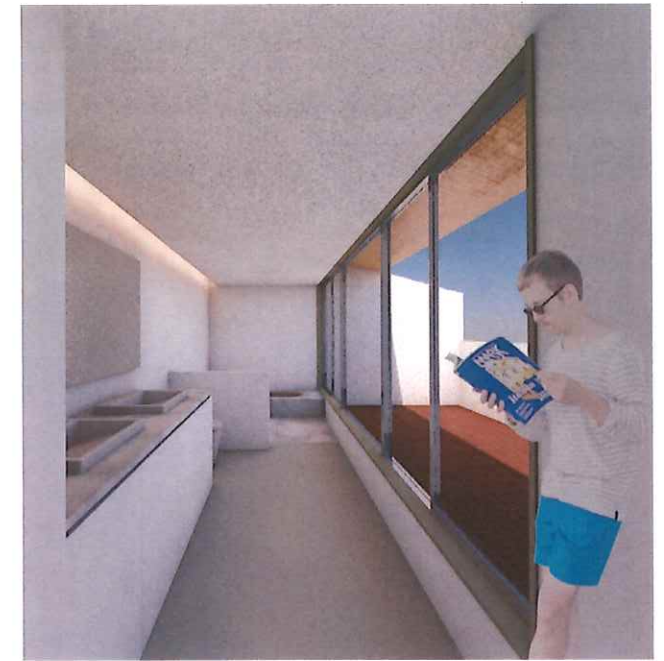
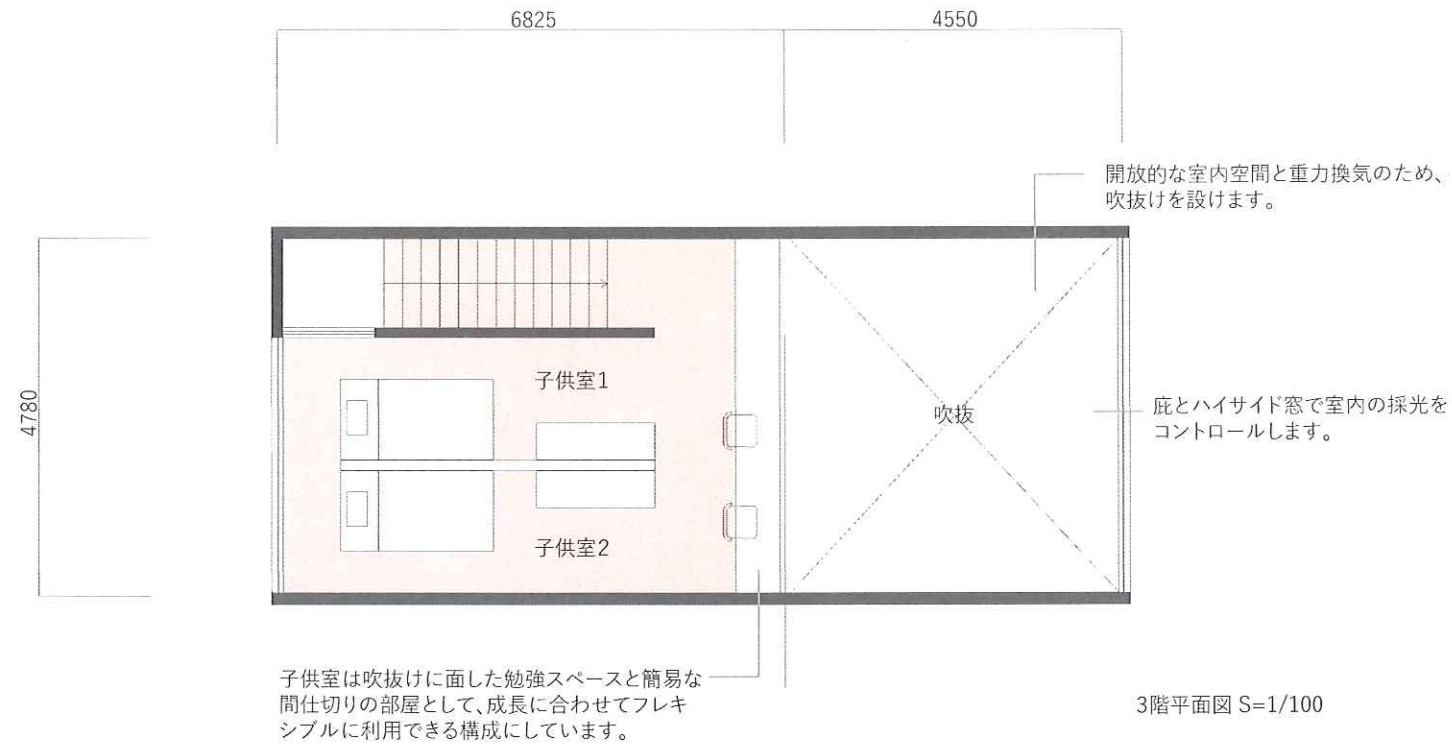
建物中央付近にエレベーター、階段を配置することで廊下の少ない室内動線とします。開放的な空間とするLDKは道路側に配置し、テラスを使ってプライバシーを確保し、比較的外部の影響を受けにくい敷地奥には寝室、サニタリーを配置することで静かな寝室空間や外部の目を気にしなくてよい浴室、物干し空間をつくっています。

構造計画

間口に対して両側に配置する外壁をトラスとすることで大きな片持梁を実現します。片持ち部分の水平力を伝達するため構造用合板t24二重貼にて床剛性を確保します。スパンの大きくなる部分は二本柱による挟み込み梁及び方杖を設けることで梁成が過大にならないようにします。

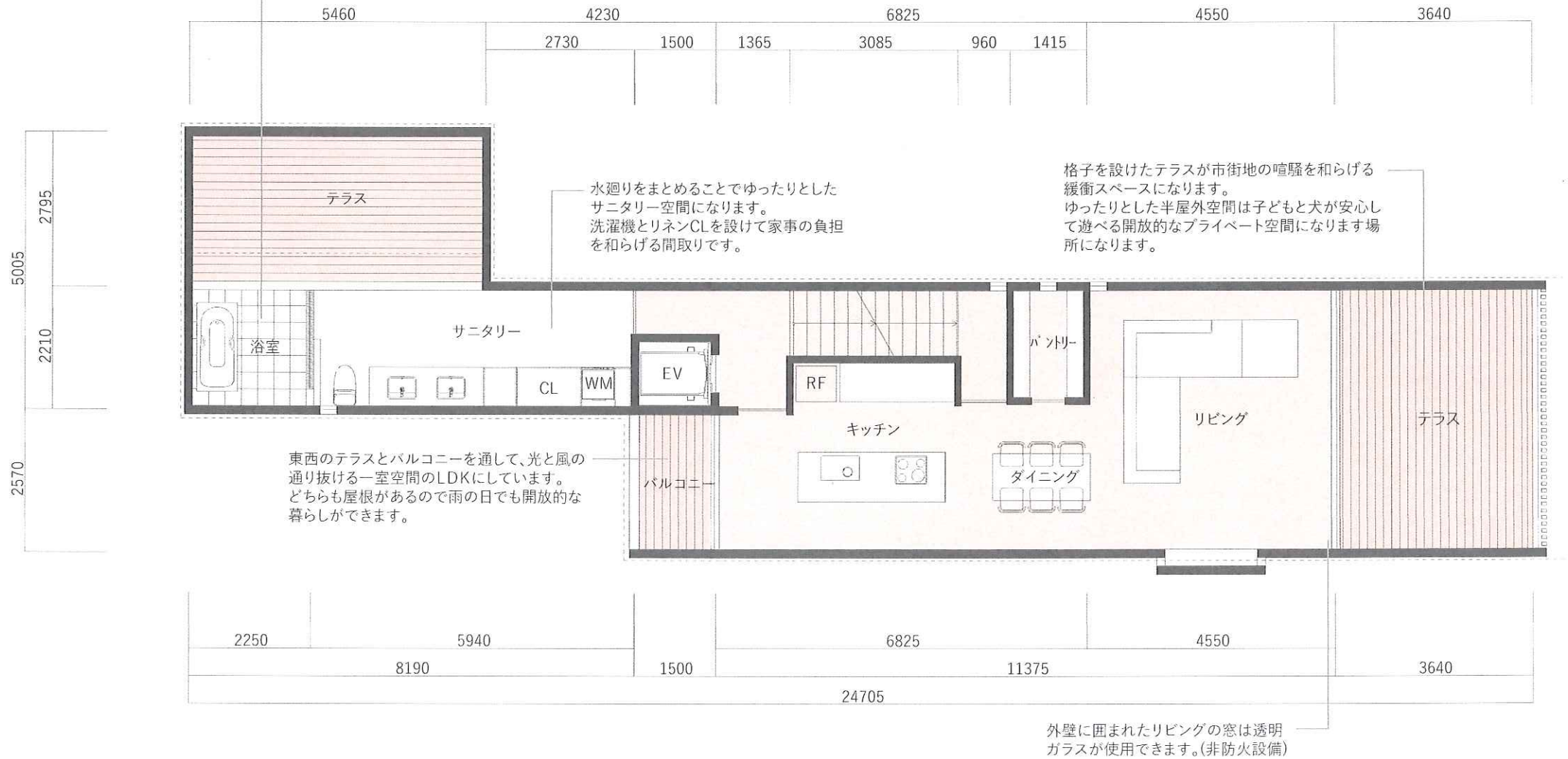
設備計画

外壁、屋根の断熱性、気密性を高めることで、気積の大きいLDK空間は穏やかに温度変化する室内環境となります。給排水設備はサニタリー及びキッチン付近にまとめることで明解な配管計画としています。

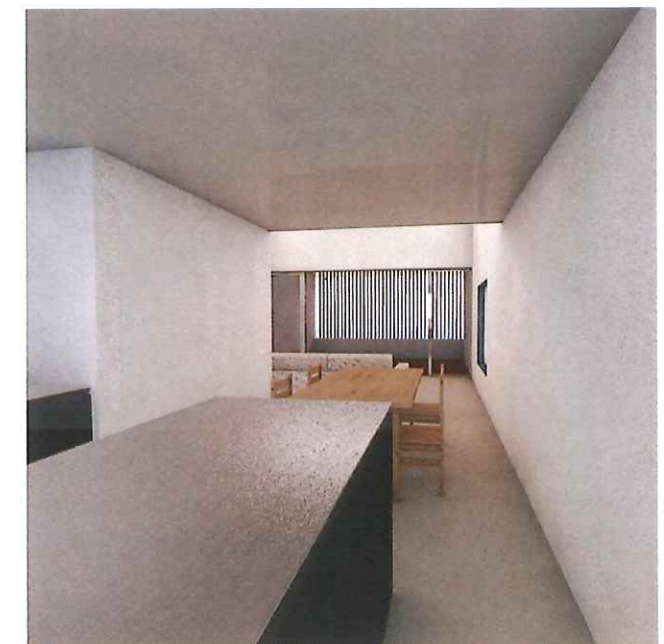


開放的なサニタリー空間

敷地の奥まった位置に設けることで人目を気にせずくつろぐことのできる開放的な浴室、テラスにしています。



勾配天井で高さを確保したリビング空間



リビングからキッチンまで繋がる空間